



鋼橋技術研究会

---

# 維持管理部会 報告書

---

## はじめに

トンネル事故やコンクリートの劣化が問題になっているように、公共構造物の老朽化が急速に進行している。今後メンテナンスに対する負担は増加の一途をたどり、メンテナンスの負担は建設への投資を上回ることが確実である。しかし我が国では新しいものをつくる技術や体制はあるものの、今あるものを長持ちさせたり、効率的かつ安全に運用していく技術や体制は必ずしも十分とはいえない。

特に、橋梁では作り直す技術はそれなりに蓄積されているものの、長持ちさせる技術は十分に蓄積されているとは言い難い面がある。

大阪府を例にとると、最近、「戦後大量建設してきた道路、橋、堤防などの土木構造物が十年後あたりから劣化が激しくなり、おびただしい更新工事に迫られる」とする試算を明らかにし、徹底した維持管理による延命策に取り組む方針を固めたとの記事が新聞紙上をにぎわした。

これによると、日々の維持管理修理を重視した政策にシフトし、構造物の延命を図って更新期を平準化するほかないと判断、2倍の延命（50年→100年）を目差して2001年度予算編成から取り組むことを表明している。このような動きは、今や大阪府だけでなく広範囲に広がりつつある。

これらのことを背景に、維持管理部会では手はじめに、腐食に対する延命化を取り上げ、出来るだけ身近な工夫を中心に延命化策を研究してきた。ここにその成果が出来たのでまだまだ不十分な点は多々あるにしても1つのまとめとして今回の成果報告に至った。少しでも会員皆様の一助になれば幸いです。

平成13年 5月  
維持管理部会長  
阿部 允